



神奈川県議員
き さ き
木佐木 ただまさ
日本共産党

いのちとくらし
守る政治をご一緒に

<プロフィール>

- 神奈川大学法学部卒
- 元法律事務所職員
- よこはま健康友の会副会長
- 横浜東民商顧問
- 弓道初段 1984年生まれ

木佐木ただまさ事務所開き 100人近い方が駆けつけてくれました

12月15日鶴見区馬場みゆき商店会にある私の事務所開きを行い、100人近い方に駆けつけていただき盛大に行うことができました。ありがとうございました。

国民の苦難あるところに共産党あり・・・親の姿を見て

改めて初心を見つめなおし、県議会に送っていただき活動した約4年を振り返る機会となりました。

私が、議員という仕事を初めて知ったのは保育園の年長の年でした。母親が共産党の町会議員になりました。その町で初めての共産党議員、そして初の女性議員として活動をしていました。田舎で女性の共産党議員ということで大変なことも沢山あったのだと思います。それでも、常に住民の困りごとに、真っ先に駆けつける母の姿から、「国民の苦難軽減」という共産党の党是を感じました。また、弁護士と連携して法律相談や生活相談を行っているのを見て、普通に生活していたのに、ひよんなことから苦境に陥ることが誰にでもありうるからこそ、助けられるようになりたいと法律家を志しましたが、そもそも政治や行政がしっかりと手を差し伸べる社会を作ることが必要だと思い、共産党の候補者になりました。

戦前から、反戦平和と国民主権を訴え、弾圧にも負けずに活動してきた共産党だからこそ、企業団体献金にも政党助成金にも頼らない、国民のための政治活動ができると確信しています。だからこそ、共産党議員として活動できることにとてもやりがいを感じます。

引き続き、国民・住民のための政治を実現するために皆さんに支えていただきながら頑張りたいと思います。

どうすれば住民の力になれるか・・・必死に取り組む毎日

そして、議会では議員としてどう活動していけばいいのか必死に取り組む日々でもありました。

県内の様々な個人や団体の方と懇談を重ねる中で、これまで気付かなかった課題にもぶつかりました。視覚障がい者の方が日頃からどのようなことに困っているのか、高齢者がどれだけ日頃の買い物に難儀しているか、子どもを預かる現場でどのような状況になっているのか。これにどれだけ行政が心を寄せて、耳を傾け、手を差し伸べられているか。

社会が効率化を求めることで、そこから外れると取り残され置き去りにされる。こうしたことをなくすために地域に根差した活動と、制度を作るための議論を行うことが私たち議員の大きな責任だと感じています。これに市会も県会も関係ありません。もっと住民の皆さんの中に飛び込んで活動をしていきたいと思っています。

「住民の福祉の向上」という行政の本来の役割発揮求め

今の県政は、住民の福祉向上という本来の役割を忘れた「なんでも（住民の）自己責任の責任放棄県政」だと感じます。

県民に責任を押し付け、行政の責任を放棄するような県政では県民福祉の向上を望めません。こうした県政にもろ手を挙げ



挨拶する木佐木と古谷市議



100人近い方が駆けつけてくれました



あさか由香氏（参議院神奈川）も一緒に



沢山のエールをいただきました

てすべて賛成するような議会を変えていくためにも必ず再選を果たして引き続き県民のための政治実現に向けて頑張りたいと思います。